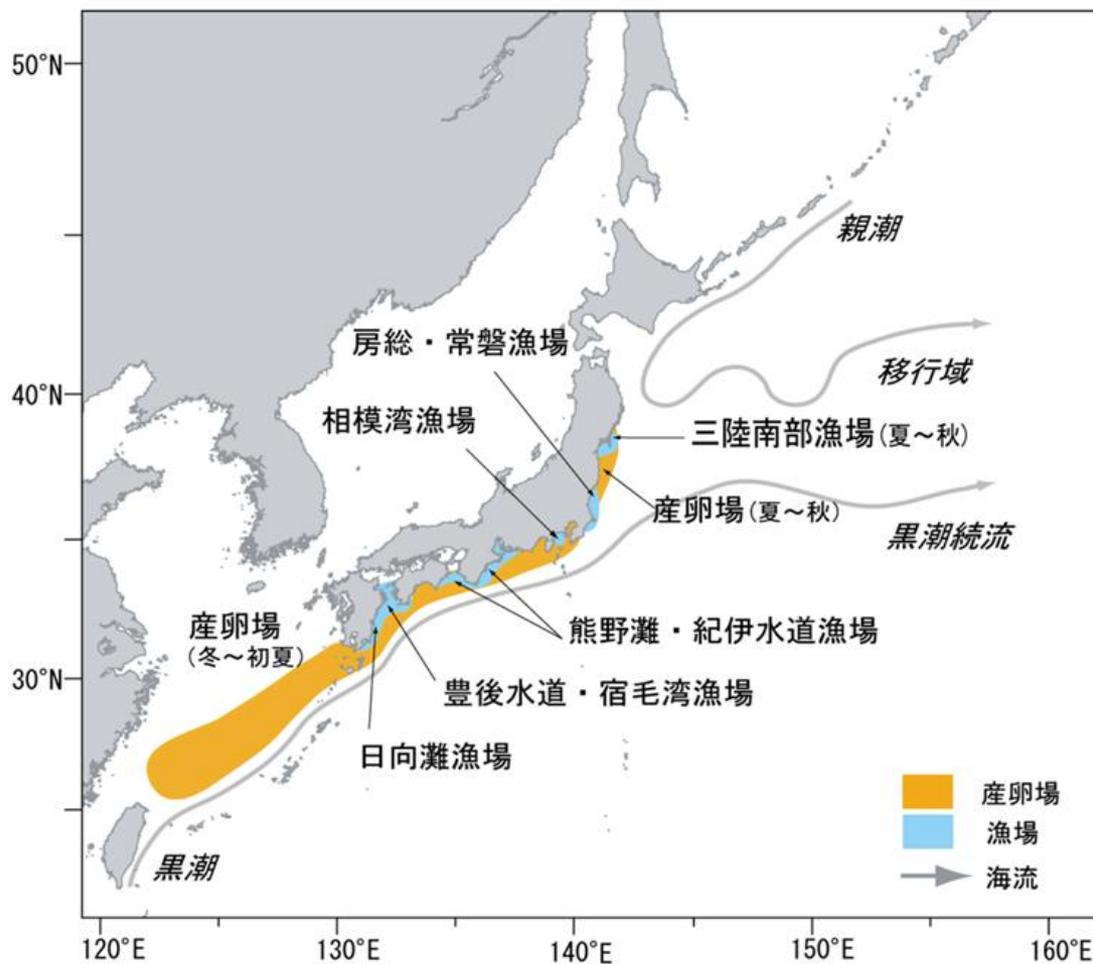




# マアジ太平洋系群 令和元年度資源評価結果

# 生物学的特性

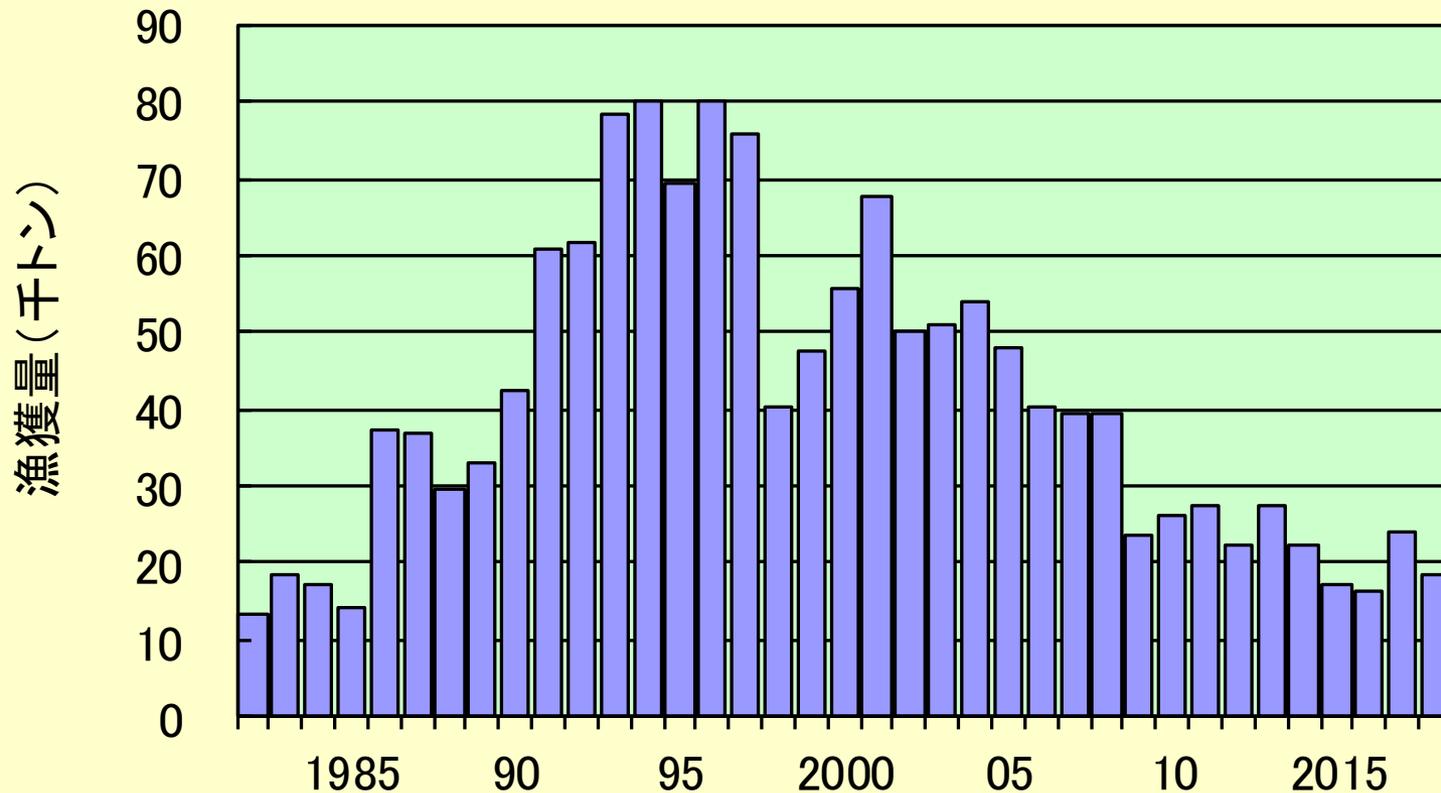


## 生物学的特性

- 寿命：5歳前後
- 成熟開始年齢：1歳 (50%)、2歳 (100%)
- 産卵期・産卵場：冬～初夏、東シナ海を主産卵場とする群と九州～本州中部沿岸で産卵する地先群がある
- 食性：仔稚魚は動物プランクトンを摂餌する  
幼魚以降は魚食性が強くなる
- 捕食者：大型の魚類等

日向灘、豊後水道、紀伊水道から熊野灘では春から秋までの漁獲が多く、相模湾では春が主体。

# 漁獲の動向

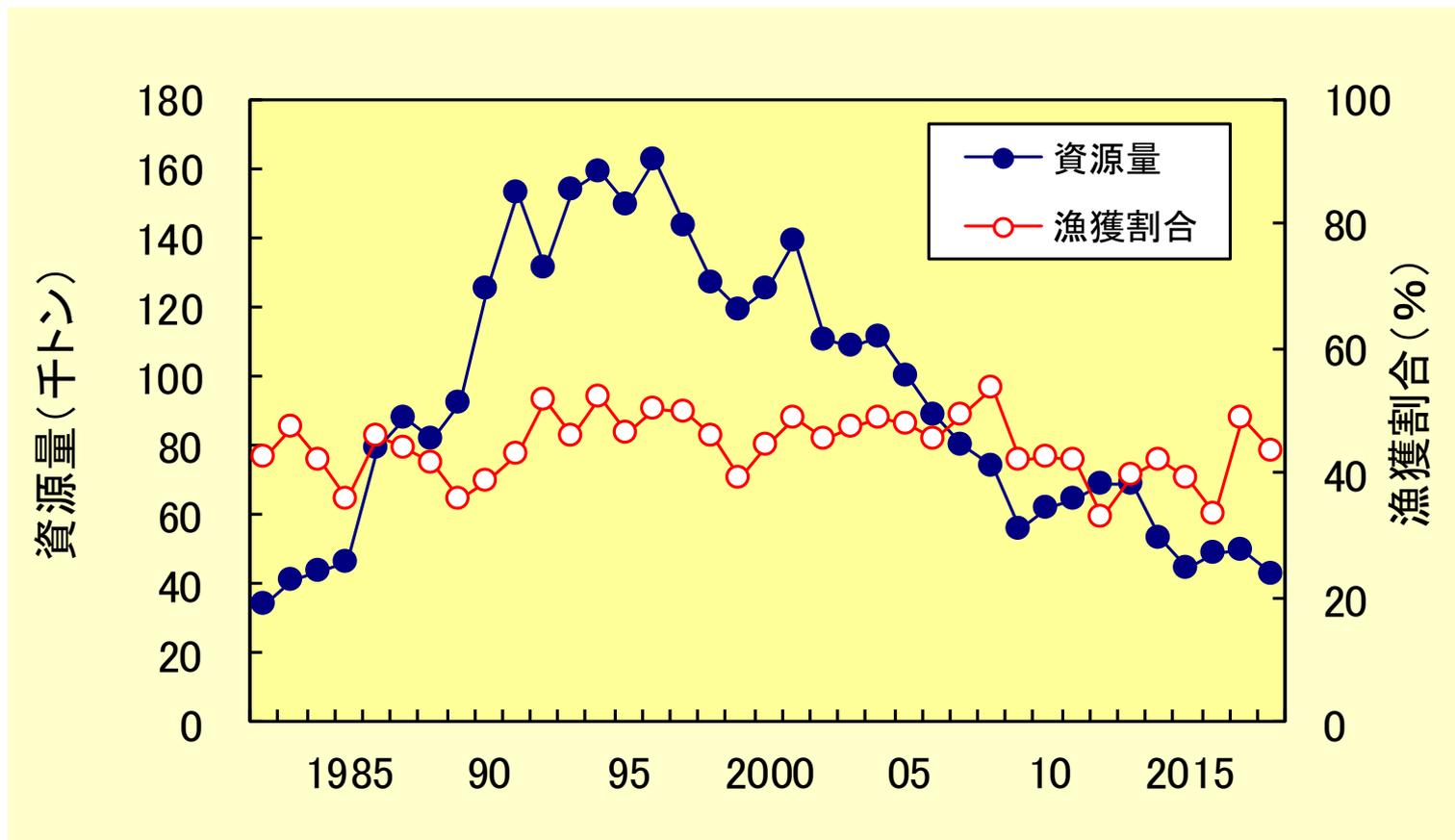


●2018年の漁獲量 1.9万トン

1993～1997年は高い水準。

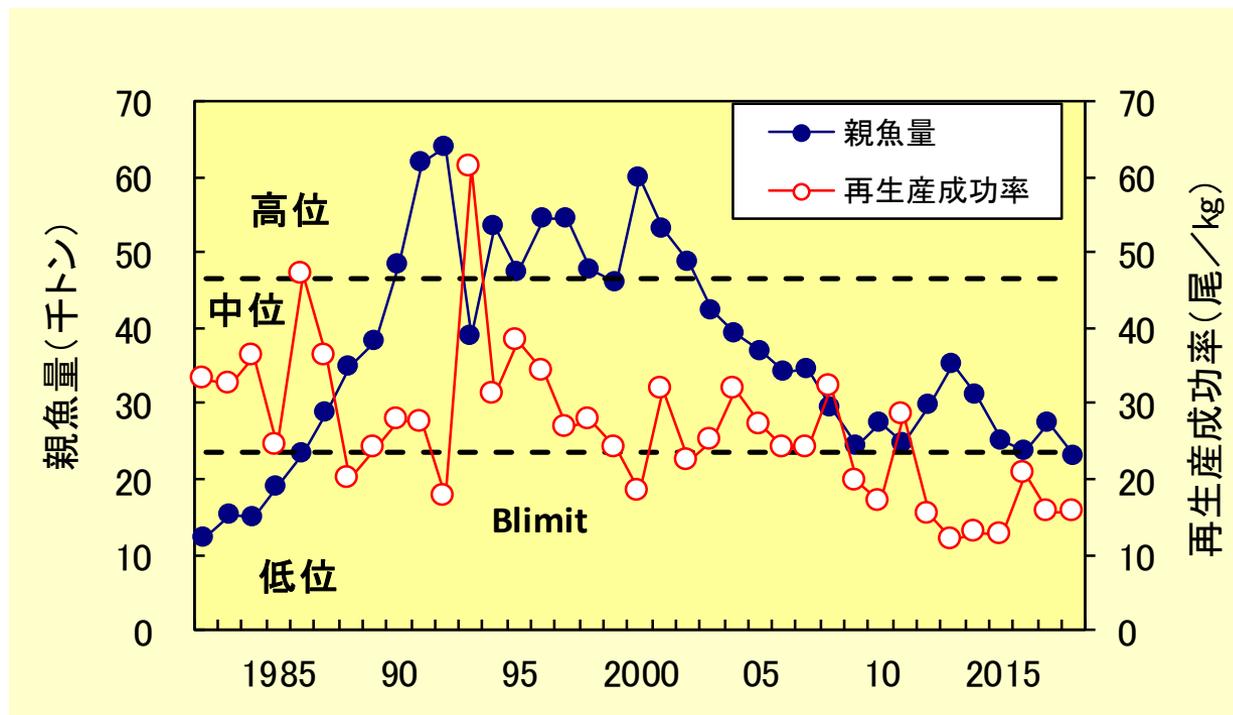
2001年の6.8万トンから減少傾向、近年は低い水準。

# 資源の動向①



- 資源量： 1996年の16.2万トンを頂点として減少傾向  
2018年は4.3万トン
- 資源動向：過去5年間の推移から「減少」

## 資源の動向②



※水準区分 低位／中位: Blimit (2.4万トン)

中位／高位: 親魚量の最高～最低値の上位3分の1に相当する 4.7万トン

- Blimit: 少ない親魚量から加入量の多い年級が発生した1986年の親魚量(2.4万トン)
- 親魚量: 2018年は2.3万トンで、Blimitを下回る低位水準
- 再生産成功率: 2012年以降12.0～20.7尾/kgと低い値

# 資源評価のまとめ

- 加入量指標値（2005～2018）でチューニングをしたコホート解析により資源量を計算した。
- 近年は資源量、親魚量、加入量のいずれも減少傾向にある。2018年の資源量は4.3万トン、親魚量は2.3万トンであった。
- 再生産成功率は2012年以降12.0～20.7尾/kgと低い値。
- 2018年の親魚量はBlimit（2.4万トン）を下回っていることから、資源水準は低位、資源量の推移から動向は減少と判断した。

# 2020年ABC表

資源量(2020)=32千トンを仮定、親魚量(2018)=23千トン、Blimit=24千トン

漁獲シナリオ (管理基準)	Target/Limit	2020年 ABC (千トン)	漁獲割合 (%)	F値 (現状のF値 からの増減%)	2025年の親魚 量 (千トン) (80%区間)	確率評価(%)	
						2025年に2018 年 親魚量を維持	2025年に Blimitを維持
親魚量の増大 (F30%SPR)	Target	8.2	26	0.43 (-50%)	50.8 (36~66)	100	100
	Limit	9.8	30	0.53 (-38%)	32.1 (23~42)	88	85
親魚量の増大 (5年でBlimitへ 回復)(Frec5yr)	Target	9.1	28	0.49 (-43%)	39.6 (28~52)	100	100
	Limit	10.8	33	0.61 (-29%)	23.5 (17~31)	44	42
		2020年 算定漁獲量 (千トン)					
親魚量の回復 措置 (SSB2018/ Blimit×Fsus)	Target	9.8	30	0.53 (-38%)	32.1 (23~42)	88	85
	Limit	11.6	36	0.67 (-22%)	18.1 (13~24)	12	11
親魚量の維持 (Fsus)	Target	9.9	31	0.54 (-37%)	31.0 (22~41)	84	82
	Limit	11.7	36	0.68 (-21%)	17.4 (12~23)	9	8
現状の漁獲圧 の維持 (Fcurrent)	Target	11.8	37	0.69 (-20%)	16.8 (12~22)	7	7
	Limit	13.7	42	0.86 (±0%)	8.1 (6~11)	0	0